

第54回 全日本聾教育研究大会
(埼玉大会)
開催要項



全日本聾教育研究会
J.A.E.R.D



全 日 本 聾 教 育 研 究 会
関 東 地 区 聾 教 育 研 究 会
全日本聾教育研究大会(埼玉大会)実行委員会

2020(令和2)年10月8日(木)~9日(金)

第54回全日本聾教育研究大会（埼玉大会）開催要項

1 大会名称 第54回全日本聾教育研究大会（埼玉大会）

2 大会主題 「自ら学びを深め、たくましく生きる力を育むろう教育」

〈主題設定の理由〉

社会の変化に対応し、人生の幅を広げるため、問題に直面したとき自ら対処するために、「学ぶ力」「生きる力」を育むことが必要である。そのためにはどうしたらよいか、聴覚障害児に対する教育の課題や成果、聴覚障害教育の専門性と新たな展望について考えていきたい。

多様化し変化の激しい社会の中で、より良く生きていくためには、学校で身につけた知識や技能だけでは十分ではない。自ら必要な情報を取捨選択し、活用して新しいことを学んだり、これまでの知識や技能を学び直し、深めたりすることが必要である。また、学ぶことは、その人の生き方の幅を広げ、豊かにすることでもあろう。学校教育では、子どもたちに知識や技能を教えるだけでなく、自ら「学び」を広げ、深めることができる力を育むことが求められている。現在では、ICTなど自ら学ぶことができる技術が普及し、一人ひとりが自分なりの「学び」を広げたり、深めたりするための環境が整いつつあるのは喜ばしいことである。しかし、それらを利用するためのリテラシーや基本的な言語力・学力については、今も多くの課題が見受けられる。

また、現実社会で生きていくためには、「学び」に加えて「生きる力」も重要になってくるであろう。特に聴覚障害児にとっては、聞こえない、聞こえにくいために直面するさまざまな生き難さや困難があるために、それらの課題に自ら対処していきける力が一層必要になってくる。「生きる力」を育むためには、自ら思考・判断・表現（行動）できるような主体性、自分を大切に自己認識・障害認識、人間関係を調整できる社会性、環境をより良くしていくエンパワーメントの力などの資質・能力や意志を育てていく必要があると考えられる。「生きる力」は、一人ひとりの「生き方」にも深く関係するものであり、その人らしい「生き方」についても考えたい。しかし、「生きる力」についてもろう学校の少人数化により経験やコミュニケーションの幅が狭められるという困難な状況も見受けられる。

このような課題や困難な状況にどう対応していったらよいか。そのためにはこれまでのろう教育の専門性を大切にしながら地道な努力とともに、学びの個別化やテクノロジーの活用、共同学習など集団を広げての活動などの新たな構想を展望することも必要になってくるのではないかとと思われる。

「学びを深め、生きる力を育む」ためのろう教育の伝統や専門性、そして新たな展望を考えていくために本主題を設定した。

3 会 期 2020(令和2)年10月8日(木)～9日(金) 2日間

4 会 場

<公開・指定授業>

◆大宮会場：埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園

〒331-0813 埼玉県さいたま市北区植竹町2-68

TEL 048(663)7525 FAX 048(660)1906

◆坂戸会場：埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園

〒350-0221 埼玉県坂戸市鎌倉町14-1

TEL 049(281)0174 FAX 049(283)9899

<開会式・記念講演・授業研究分科会・研究協議分科会>

◆埼玉会館

〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4

TEL 048(829)2471 FAX 048(829)2477

◆埼玉教育会館

〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-12-24

TEL 048(832)2551 FAX 048(832)2401

5 主 催 全日本聾教育研究会 関東地区聾教育研究会

6 主管校 埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園

7 協力校 関東地区聾学校22校

茨城県立水戸聾学校

茨城県立霞ヶ浦聾学校

栃木県立聾学校

群馬県立聾学校

千葉県立千葉聾学校

筑波大学附属聴覚特別支援学校

東京都立大塚ろう学校

東京都立立川ろう学校

東京都立葛飾ろう学校

東京都立中央ろう学校

明晴学園

日本聾話学校

横浜市立ろう特別支援学校

横須賀市立ろう学校

川崎市立聾学校

神奈川県立平塚ろう学校

山梨県立ろう学校

長野県長野ろう学校

長野県松本ろう学校

静岡県立静岡聴覚特別支援学校

静岡県立沼津聴覚特別支援学校

静岡県立浜松聴覚特別支援学校

8 協 賛 (予定)

小川再治研究協賛会

公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会

公益財団法人日本教育公務員弘済会埼玉支部

9 後 援 (予定)

文部科学省

埼玉県教育委員会

さいたま市教育委員会

坂戸市教育委員会

全国聾学校長会

全国聾学校教頭会

全国特別支援学校長会

関東地区聾学校長会

関東地区聾学校教頭会

埼玉県特別支援学校長会

全国ろう学校PTA連合会

全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会

一般社団法人埼玉県聴覚障害者協会

10 大会日程

月日	時間	日程		
大会前日 10/7(水)	14:00 ~ 14:50 15:00 ~ 16:30 16:30 ~	大会運営委員会 (前日打ち合わせ) 全日本聾教育研究会全理事協議会 授業研究分科会打ち合わせ (助言者・司会者・記録者)		
第1日 10/8(木)	大宮会場 (場所: 大宮ろう学園)		坂戸会場 (場所: 坂戸ろう学園)	
	8:30 ~	受付	8:30 ~	受付
	9:00 ~ 9:45	公開授業・指定授業①(小学部)	9:30 ~ 9:50	公開授業(幼稚部)
	8:55 ~ 9:45	公開授業(中学部・高等部)	9:00 ~ 9:45	公開授業(小学部)
	8:55 ~ 9:45	公開授業(専攻科)	9:00 ~ 9:50	公開授業(中学部・高等部)
	9:00 ~ 10:00	寄宿舎公開	9:00 ~ 10:00	寄宿舎公開
	9:30 ~ 11:00	指定授業(幼稚部)	10:00 ~ 10:50	指定授業(中学部・高等部)
	10:00 ~ 10:45	指定授業②(小学部)		
	9:35 ~ 10:45	指定授業(重複部)		
	10:00 ~ 10:50	指定授業(専攻科)		
	10:00 ~ 10:50	寄宿舎紹介(寄宿舎)		
11:00 ~ 13:00	休憩・移動・昼食 ※移動は公共交通機関	10:50 ~ 13:30	シャトルバスにて移動・ 昼食・休憩	
13:00 ~ 15:00	授業研究分科会 ~埼玉会館~ (幼稚部・重複部・専攻科・ 寄宿舎) 授業研究分科会 ~埼玉教育会館~ (小学部)	13:30 ~ 15:00	授業研究分科会 ~埼玉会館~ (中学部・高等部)	
15:15 ~ 15:45	開会式(埼玉会館)			
15:45 ~ 17:00	記念講演(埼玉会館)			
17:00 ~ 17:30	2日目研究協議分科会打ち合わせ(助言者・司会者・記録者・会場係)			
第2日 10/9(金)	9:00 ~	受付は各会場(埼玉会館・埼玉教育会館)		
	9:30 ~ 12:00	研究協議分科会		
	12:00 ~ 13:00	昼食・休憩		
	13:00 ~ 16:00	研究協議分科会		
	16:00 ~ 16:20	閉会行事(各分科会ごとに実施)		

11 第1日

(1) [8:55~9:50] 公開授業 <大宮ろう学園・坂戸ろう学園>

大宮ろう学園	小学部・中学部・高等部・専攻科
坂戸ろう学園	幼稚部・小学部・中学部・高等部

(2) [9:00~10:50] 指定授業<大宮ろう学園・坂戸ろう学園>

大宮ろう学園	幼稚部・小学部・重複部(小中高合同)・専攻科
坂戸ろう学園	中学部・高等部

(3) [13:00~15:00] 授業研究分科会<埼玉会館・埼玉教育会館>

◆研究テーマ：全体テーマ「自ら学びを深め、たくましく生きる力を育むろう教育」◆

分科会	研究テーマ		助言者	会場予定
	大宮ろう学園	坂戸ろう学園		
① 幼稚部	自ら遊び、自ら学ぶ“ろう保育”を目指して	あそびを通して、たくましく生きるろう保育	元筑波技術大学准教授 新井 孝昭	埼玉会館 ラウンジ
② 小学部	日本語を大切にしたいわかる授業づくり	子どもの日本語力を伸ばすための環境づくりを授業実践に活かして	筑波技術大学 教授 長南 浩人	埼玉教育会館 201・ 202
③ 中学部	自立に向けた生徒指導、学習指導のあり方	生徒一人ひとりが主体的に取り組める授業づくり	宮城教育大学 准教授 松崎 丈	埼玉会館 3C
④ 高等部	社会自立に向けて主体的に学ぶ力を育てる	様々な体験を通じて、自ら学ぶ力を育てる	亜細亜大学 客員准教授 橋本 一郎	埼玉会館 7B
⑤ 専攻科	SSTの取組を通じて、より良い学習態度の育成		日本聴覚障害 ソーシャルワーカー協会 副会長 舘脇 千春	埼玉会館 6B
⑥ 重複部	コミュニケーションの力を高める	ろう重複の児童生徒に付けたい生きる力	宮城教育大学 教授 菅井 裕行	埼玉会館 7A
⑦ 寄宿部	寄宿舎で育む生活力	たくましく生きる力を育む寄宿舎教育	國學院大学講師 東京愛育苑金町学園 児童指導員 森本 行雄	埼玉会館 4A

(4) [15:15~15:45] 開会式次第

- ① 開会の辞
- ② 挨拶 全日本聾教育研究会会長
埼玉大会実行委員長(埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園校長)
- ③ 来賓挨拶 文部科学省 埼玉県教育委員会
- ④ 来賓紹介 関東地区聾教育研究会会長
- ⑤ 閉会の辞
- ⑥ 諸連絡 大会事務局

(5) [17:15~17:45] 2日目研究協議分科会打ち合わせ(助言者・司会者・記録者・会場係)
打ち合わせ場所：埼玉会館ラウンジ

1.2 [15:45~17:00] 記念講演

講師 濱田豊彦氏 (東京学芸大学教授)

演題 「ろう教育で大ボラを吹く」

1.3 第2日目

(1) [9:00~12:00, 13:00~16:00] 研究協議分科会

No	分科会	協議主題 (分科会テーマ)	助言者	会場予定
		主題設定の理由	運営担当校	
①	早期教育 I (乳幼児)	豊かなコミュニケーションを育み、主体的な子育て支援の在り方	信州大学 教授 庄司 和史	埼玉会館 3 B
		乳幼児個々の発達に応じた活動を行うなかで、豊かなコミュニケーションを育み保護者・家族が前向きに子育てしていけるための支援の在り方について研究する。	東京都立大塚ろう学校	
②	早期教育 II (幼稚園)	思考力や判断力を育て、コミュニケーションの力を伸ばすための幼児期の指導の在り方	元筑波大学教授 筑波大学講師 公益財団法人 聴覚障害者教育福祉協会 事務局長 松本 末男	埼玉会館 3 C
		幼児期におけるコミュニケーションの力は、遊びや環境の中で育まれる。思考力や判断力、それらを総合的に身につけるための幼稚園段階の指導・支援の在り方について研究する。	茨城県立霞ヶ浦聾学校	
③	教科学習と 学ぶ力 (小学部)	豊かな思考力を育てるための小学部段階における教科指導の在り方と実践の工夫	筑波技術大学 教授 長南 浩人	埼玉会館 7 B
		小学部からの学習は、教科書を使った指導が始まる。それぞれの教科の理解度が他の教科の理解度に与える影響も大きく、各教科のつながりも深い。また、教科学習を念頭に置きながら、小学部段階で必要な児童の思考力・判断力・表現力を一人ひとり高めるための授業工夫や指導法について研究する。	千葉県立千葉聾学校	
④	教科指導 (中・高文系)	生きる力や社会的自立の基盤となる実践や指導法の工夫	大阪ろう難聴就労支援センター 理事長 前田 浩	埼玉会館 4 A
		国語科や社会科、英語科等の学習において、社会的自立に必要な知識を習得し、主体的に解決できる態度を育成するための実践や指導法について研究する。	筑波大学 附属聴覚特別支援学校	
⑤	教科指導 (中・高理系)	生きる力や社会的自立の基盤となる実践や指導法の工夫	筑波技術大学 准教授 脇中 起余子	埼玉会館 5 B
		数学や理科等の学習において、社会的自立の基盤となる事柄の定着や主体的に探究する態度を育成するための実践や指導法について研究する。	茨城県立水戸聾学校	

No	分科会	協議主題 (分科会テーマ)	助言者	会場予定
		主題設定の理由	運営担当校	
⑥	教科指導 (実技系)	生きる力や社会的自立の基盤となる実践や指導法の工夫	帝京平成大学 教授 藤本 裕人	埼玉会館 5 A
		社会生活において、より自分らしく生きるための基盤となる「発想力」「表現力」「感受性」を育成するための実践や指導法について研究する。	東京都立葛飾ろう学校	
⑦	言語力向上	多様な幼児児童生徒がいる中で、一人ひとりの言語力を向上させていくための指導の工夫	金沢大学 教授 武居 渡	埼玉会館 ラウンジ
		「言語力向上」は、ろう教育での大きな目標の一つであり、これまで続いてきた課題でもある。聴力、家庭の環境、認知の特性など多様な子ども達がいる。その中で視覚が優位な子、聴覚が優位な子、日本語が第一言語の子、手話が第一言語の子など、言語獲得・習得にいたる道筋もさまざまである。認識や思考を支え自ら学びを深めるための基盤としての言語力、特に学習言語の力まで身につけていくための多様な実践の在り方を研究する。	東京都立立川ろう学校	
⑧	自立活動Ⅰ (障害認識・コミュニケーション)	社会自立につながる豊かなコミュニケーション力の育成と障害認識のための支援の在り方	亜細亜大学 客員准教授 橋本 一郎	埼玉会館 7 A
		多様化し変化の激しい社会で、聴覚障害児・者が他者と協調し、自立して生活していくためには、豊かなコミュニケーション力が必要である。さまざまな状況や場面に応じて通じ合うためのスキルや、障害認識に基づいた、セルフアドボカシーやエンパワーメント等、周囲の人々や社会に対しての働きかけについての支援や指導の在り方を研究する。	川崎市立豊学校	
⑨	自立活動Ⅱ (聴覚活用、発音・発語指導、補聴機器)	一人ひとりの聴力に合わせた補聴機器を活かすことを前提に、聴覚学習や発音・発語学習による日本語力向上のための自立活動の在り方	同志社大学 准教授 中瀬 浩一	埼玉会館 6 D
		補聴器、補聴援助システムの技術進歩、人工内耳装用者の増加のため、今後ますます聴覚を活用した指導力が求められる。個々のニーズに合った自立活動の授業を通して、幼児児童生徒の日本語力向上を目指すと共に、生きる力を身につける教育実践について研究する。	東京都立中央ろう学校	
⑩	重複障害教育	個々の障害の状況や特性を考えた支援や集団を意識した教育活動の在り方	宮城教育大学 教授 菅井 裕行	埼玉教育会館 201・ 202
		障害が重度重複化・多様化する中で、さまざまな専門的知識や教育活動の充実が求められる。集団の中で児童生徒が学び合い心豊かに充実した生活を送れるよう、支援や教育活動について研究する。	横須賀市立ろう学校	
⑪	寄宿舎教育	異年齢集団生活の中で生きる力を育むための寄宿舎教育の在り方	國學院大学講師 東京愛育苑金町学園 児童指導員 森本 行雄	埼玉会館 6 C
		寄宿舎に入る幼児児童生徒は、通学の保障や生活習慣等生活力の向上と共に、集団生活における自治活動やコミュニケーションの中で、他者との関わりを学ぶことができる。そこから、社会性や主体性を身に付け、将来生きていくための支援について研究する。	神奈川県立平塚ろう学校	

No	分科会	協議主題 (分科会テーマ)	助言者	会場予定
		主題設定の理由	運営担当校	
⑫	キャリア教育・卒業後の進路	発達段階に応じたキャリア教育の推進と卒業後の支援の在り方	東京聴覚障害者支援事業所 所長 矢野 耕二	埼玉会館 5C
		乳幼児教育相談から高等部専攻科までそれぞれの発達段階に応じたキャリア教育をどのように推し進めるべきか、現状を報告し合いながら、ろう学校におけるキャリア教育について考える。また、ろう学校卒業後の支援について、どのような支援が必要とされるのか具体的に研究する。	横浜市立ろう特別支援学校	
⑬	関係諸機関との連携、センター的機能	関係諸機関との連携による聴覚障害教育の充実と地域の学校への支援の在り方	大阪教育大学 教授 井坂 行男	埼玉会館 5D
		聴覚障害児が地域でたくましく生きるための充実した支援や関係諸機関との連携、センター的機能をどのように構築していくかを研究する。	栃木県立聾学校	
⑭	発達障害を併せ有する聴覚障害児に対する支援	発達障害を併せ有する幼児児童生徒一人ひとりの特性に合った指導・支援の在り方	東京学芸大学 教授 濱田 豊彦	埼玉教育会館 104
		知的障害を伴わないいわゆる発達障害（限局性学習障害、ADHD、自閉症スペクトラム障害）を併せ有する子どもは、ろう学校においてその占める割合は高いといわれる。これまで、聴覚障害の中で、見過ごされがちだった発達障害の側面をクローズアップすることで、なかなか指導効果のあげられなかった事例について、子どもの実態を捉え直し、将来にわたって生き難さを軽減するための指導・支援について研究する。	群馬県立聾学校	

※情報保障について

全体会（開会式、記念講演）では、手話通訳、要約筆記、ヒアリングループを準備いたします。ただし、授業研究分科会と研究協議分科会では、必要とする参加者がいる場合に情報保障を行いますので、情報保障を希望される場合は、その旨を「大会参加申込書」にご記入ください。

(2) [16:00～16:20] 閉会行事 ※各研究協議分科会々場においてVTRを放映

① 開会の辞

② 挨拶

全日本聾教育研究会会長

埼玉大会実行委員長（埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園校長）

全日本聾教育研究会副会長（次年度開催主管校 校長）

③ 閉会の辞

14 大会参加費用

会員 2,000円 会員外 3,500円

学生 2,000円（学生は参観・聴講のみ）

1.5 研究発表

研究協議分科会の研究発表の資格は会員であることとします。

なお、地区研究会に所属していない大学教員等は、本部事務局が対応、掌握の上、会員資格を得てください。

連絡先	全日本聾教育研究大会本部事務局	〒272-8560
	TEL 047(371)4135(代表)	千葉県市川市国府台2-2-1
	FAX 047(372)6908	筑波大学附属聴覚特別支援学校内

発表件数が多い分科会においては、発表時間を十分に設定できない場合があります。予めご了承ください。

1.6 大会参加の申込み方法等

項目	締切日	申込み・提出先
大会参加・研究発表等の申込み	2020(令和2)年6月12日(金)	全日聾研(埼玉大会)事務局 (埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園・坂戸ろう学園) ※専用のWebフォームから申込み・提出をしてください
研究発表原稿提出	2020(令和2)年7月22日(水)	

1.7 自然災害発生時における対応

- (1) 公共交通機関に影響がない場合は、原則として大会は実施いたします。
- (2) 臨時休校になった場合、公開授業は中止になります。
- (3) 指定授業は、授業研究分科会会場である埼玉会館及び埼玉教育会館にて、撮影した授業を視聴いただきます。
- (4) 1日目の公開授業が中止になる場合は、受付時間と場所が変更になります。

	通常開催	公開授業が中止になる場合
受付時間および場所	8:30～9:00 [各会場校]	10:00～11:00 [埼玉会館・埼玉教育会館]
指定授業開始時刻	10:00～	11:00～

- (5) 公開授業の中止を決定した場合は、参加申込みの際に登録していただくメールアドレス宛に、一斉連絡をするとともに、下記ホームページに掲載いたします。

[大宮ろう学園HP] <https://ohmiya-sd.spec.ed.jp/>

[第54回全日本聾教育研究大会(埼玉大会)HP] <https://www.zennichiro.jp/>

1.8 大会事務局及び連絡先

<p>第54回全日本聾教育研究大会(埼玉大会)事務局</p> <p>〒331-0813 埼玉県さいたま市北区植竹町2-68</p> <p>埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園内</p> <p>電話 048(663)7525 FAX 048(660)1906</p> <p>大会実行委員長: 校長 桑原 智子 大会事務局長: 教諭 毛利 めぐみ</p> <p>全日本聾教育研究大会(埼玉大会)事務局メールアドレス</p> <p>zennichirou-saitama@ohmiya-sd.spec.ed.jp</p>
--

